

令和7年度学校だより

学校教育目標

自主 責任 明朗

キャッチフレーズ

夢・自信・誇り



開校46年目

六中だより 10月号

〒352-0023 埼玉県新座市堀ノ内3-11-1

TEL 048-478-2764 FAX 048-482-0136

HP <https://j-dairoku-c-niiza.edumap.jp>

→ 第六中HP →



～「夢・自信・誇り」を育む学校を目指して～
六中生であることに「誇り」をもつために

校長 中島 豊

今年は残暑が長引き、この原稿を書いているのは、新人体育大会の真っ最中なのですが、「秋」とは思えない暑さの中、生徒たちは熱い戦いを繰り広げています。さて、今号は第六中のキャッチフレーズの3つ目「誇り」について述べます。

実は、私自身は中学・高校生くらいの頃は、「誇り」という言葉に抵抗感を持っていました。その言葉に、尊大や傲慢というニュアンスを感じていたからだと思います。「誇り」を辞書で引くと「ほこること。自慢に思ふこと。（『広辞苑』岩波書店）」などとあり、例えば「謙虚さ」とは相反する概念かもしれません。今も「誇り」とは、使い方が難しい言葉だと思っています。

また、「自信」という言葉と「誇り」という言葉は、どちらも能力や成果などに対して抱く肯定的な感情という点で似ています。ただ、「日本人であることに誇りを持つ」とはいえませんが、「日本人であることに自信を持つ」というと、違和感がある、あるいは意味が相当変わってしまいます。「誇り」は、「自信」と違って、個人的なこと以外にも、「集団」に対しての肯定的な感情という意味もあるのだと思います。

誇りを持つことで、困難な状況でも自分たちを信じる力が湧いたり、目標達成への意欲を持続させられたり、人間関係の質を向上させたり、他者の尊重につな

がったりします。以前、「『自分はダメだ』と思って生きる人生は不幸だ」と書きましたが、同じように、「第六中は良くない学校だ」と思っているのは、学校生活は楽しいものとはならないでしょう。第六中の校長となった今は、生徒たちには、六中生であることに誇りを持てるようになってほしいと強く思っています。

第六中に誇りを持つためには、一人一人の日々の努力とともに、仲間との協力が大切です。1学期に行われた体育祭は素晴らしいものでした。また、運動部の大会や文化部のコンクールなどでも六中生は頑張っていますし、集会での話を聞く態度や、あいさつ運動での元気の良いあいさつなど、六中生には良いところがいっぱいあります。

10月となり、今年度もちょうど折り返し地点を過ぎたところです。この後も合唱コンクールなどの行事がありますし、受験は団体戦です。六中生が、六中生であることに誇りが持てるように、学校一丸となって生徒一人一人の成長を支援するとともに、集団としての成長を促す教育活動を行います。

校長としての「夢」の一つは、生徒皆に「六中生で良かった」と思ってもらうことです。保護者や地域の皆様にも、引き続き御協力をお願いいたします。

